

そぞろある記



楽しんだ夏まつり

村特別養護老人ホーム「うねとり荘」（大上重信施設長、入所者60人）で8月5日、恒例の夏まつりが行われました。

今年は太田名部出身の砂合満男さん(60)＝埼玉県在住＝（円写真）が所属する弘春会（高橋弘春代

表）の皆さんが、「南部牛追い唄」「五木の子守歌」や「河内音頭」など13曲を尺八や三味線合奏で披露しました。

会場内はかき氷や綿あめなどの出店も並び、子どもたちも大喜び。最後は全員で盆踊をして（写真）、皆さんはそれぞれ楽しい夏のひとときを過ごしたようです。



皆で明るい社会を

7月21日夕方、普代郵便局付近で、普代中学校執行部を中心とした生徒ら5人が、ボランティア活動で“社会を明るくする運動”のキャンペーンを行いました。

生徒たちは保護司会や役員職員らと一緒に、道行く人たちにチラシやティッシュを手渡し、同運動の理解と協力を呼び掛けました。（写真）

同中3年の熊谷隆志君は「ぼくたちの呼び掛けで地域の方々が運動を理解してくれればうれしいです」と話していました。

静かに冥福を祈る

村戦没者追悼平和祈願祭が8月5日、英霊塔の前で行われ、不戦と平和を誓いました。

30度を超す暑さの中、式には遺族の方々など約60人が出席。村遺族会の中野ミヨ会長が「60年を超える年月が流れたにもかかわらず、悲痛な思いは今もあり、恐ろしい戦争、苦しみ悲しみの心の傷は永遠に消えることはありません。平和な日本を、世界を築くため、努力することを誓います」と追悼の言葉を述べました。引き続き、参加者全員が焼香し静かに手を合わせ（写真）犠牲者の冥福を祈りました。

